

風しんについて

【感染経路】

風しんは、風しんウイルスに感染することで起こる急性の発疹感染症です。感染した人の「咳やくしゃみなど」のしぶきに含まれる細菌を吸い込んだり、しぶきのついた手で、目や口を触ったりすることで人から人に感染します。

感染期間は、発疹が出現する7日前から発疹後7日までの間です。

【症状】

感染すると約2～3週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。風しんの症状は、子どもでは比較的軽いのですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が、2,000人～5,000人に1人くらいの割合で発生することがあります。また、大人がかかると、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風しんウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつ（先天性風しん症候群）子どもが出生することがあります。（妊娠1ヶ月でかかった場合50%以上、妊娠2ヶ月の場合は35%などとされています）。

【治療】

対症療法となります。

【予防】

風しんワクチン（主に接種されているのは、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン））を接種することによって、95%以上の方が風しんウイルスに対する免疫を獲得することができます。また、2回の接種を受けることで1回の接種では免疫が付かなかった方の多くに免疫をつけることができます。さらに、接種後年数の経過と共に、免疫が低下してきた人に対しては、追加のワクチンを受けることで免疫を増強させる効果があります。1回目のワクチン接種後の副反応として最も多く見られるのは発熱です。接種後1週間前後に最も頻度が高いですが、接種して2週間以内に発熱を認める人が約13%います。その他には、接種後1週間前後に発疹を認める人が数%います。アレルギー反応としてじんま疹を認めた方が約3%、また発熱に伴うけいれんが約0.3%に見られます。2回目の接種では接種局所の反応が見られる場合がありますが、発熱、発疹の頻度は極めて低いのが現状です。風しんのり患歴や予防接種歴が明らかでない場合は予防接種を検討してください。

ワクチン接種ができない方（妊娠中の方や免疫異常のある方等）につきましては、風しんは、インフルエンザと同じように、手洗い・うがいで予防できます。また、人ごみはできるだけ避け、マスクを着用しましょう。

【関連機関へのリンク】

風しんについて（厚労省 HP）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekakukansenshou/rubella/index.html

風しんについて（石川県 HP）

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kansen/huusin.html>

風しん抗体検査事業について（石川県 HP）

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenkou/huusin/huusin.html>

H30.11.6

能登中部保健福祉センター作成